令和8年度　学校経営計画書

玉野市立荘内中学校　校長　住田　義広

○本校のミッション（使命、存在意義）

荘内中型学校教育DXを推進し、生徒の新しい学びと教職員の働き方を具現化し、令和の中学校教育を創造して自走する学習者、主体的に行動し、社会に貢献する人材を育成する。

○学校内外の環境分析

【内部環境】①生徒数346名。素直で積極的に主体的な活動に取り組むが、人間関係の固定化、家庭学習の時間が短い等の課題もある。また安易なレベルで満足し、自分に甘い生徒や個別支援が必要な生徒も多い。②中学校区一貫教育校園として就学前教育保育及び小学校教育との連携を推進するとともに、学校運営協議会を設置し、地域と共育目標を共有し、愛される人間づくりを進めている。③教職員には改革心と教育愛があり、生徒を主役に位置付けた未来の学校づくりを進めている。一方で急激な若返りが進む中で指導力の向上が必要であるとともに、一層の組織的対応が必要である。
【外部環境】学区が広く、田園地帯と新興住宅地が混在しており、住民の意識の多様化が進んでいるが、学校教育に対しては応援する機運が醸成されている。保護者は教育熱心で学校に協力的であるが、多様な意見があり、保守的な考え方も根強いため、学校の取組を理解していただく取組が一層必要である。

○ミッションの追求を通じて実現しようとする本校のビジョン（将来像、目指す姿）

校　　訓：明るく　正しく　たくましく
学校教育目標：主体的に学び、主体的に行動する生徒の育成
～志を胸に自らを律しながら、愛されることを大切にし、未来創造へ挑戦していく生徒の育成をめざして～
目指す学校像：生徒が笑顔で活躍する学校　　目指す生徒像：志を持ち、愛されながらポジティブに挑戦する生徒
目指す教職員像：自らをアップデート（自己研鑽）し続け、生徒を主語にした教育活動を実践する教職員

○令和8年度の具体的な学校経営方針

1「荘内中版：学びスタイル」（先行学習を基盤とした協働学習）＆2か月サイクル学習による学力向上

①先行学習による予習学習活動を推進し、授業での協働的な学びの充実を推進
・AIドリルの積極的活用とともにコピペや生成AI活用では取り組めない課題を工夫して提示
・『協同学習』の理念を基盤とした協働的な学びを徹底することでコンピテンシーを育成し、そのうえで自由進度学習等の取組を推進して真の協働的な学びの成果を実現（単元計画の提示、評価基準の明確化、他者の学習目標や振り返り・学習状況の共有で効果的な協働的な学びを充実）する。また、生成 AI を学びに活用するスキルを育成する。
②教科特性、「見方・考え方」に応じ、家庭学習と授業が連動するクラウド課題やAIドリル、週課題の提示等を徹底
③生徒の主体的な学びのPDCAサイクルを徹底（フォーサイト手帳活用）させるため、学力診断テスト及び家庭学習強化週間・月間を適切に運営する。

2　生徒の主体性育成（生徒に「委ねる」教育の充実）

（1）生徒が企画運営する活動を充実（学校は小さな社会、学校に民主主義を重視し生徒会自治を徹底）
①学級・生徒会活動、学校行事、部活動等で、生徒が自治し、活動内容を企画運営する取組を重視
②学校生活向上プロジェクトチームの充実で生徒同士が支え合い、高め合う企画を展開
③学校行事における実行委員会組織による企画運営を推進
④リーダーシップとフォロワーシップの大切さを醸成する取組を推進
（2）積極的生徒指導支援の推進（PBIS：ポジティブな行動的介入と支援、生徒自治による課題解決）
①PBISの取組を充実させ、主体的に正しい判断のもと行動する生徒を育成（荘内 BASE の定着）
②生徒分析による実態把握を活用した積極的生徒指導を展開（Web-QU、SEHS等）
③生徒会会員規則を自分事として捉えるルールメイキング等の取組を充実
④生徒会＆学級組織を活用した自治活動の充実による生徒指導課題の解決を工夫

3　探究教育活動の充実によるコンピテンシーの育成

①総合的な学習の時間による3年間を通した探究活動の充実によるコンピテンシー育成（望まれる人間力育成）
②「こみゅトレ」「まなトレ」「ねっトレ」の設定時間の充実による生きる力と学びに向かう力に必要なコンピテンシー育成

4　中学校区一貫教育の推進

①9年間の義務教育期間で効果的に生きる力を育成する一貫教育を推進（協働的な学び、ICT活用力等）
②「中学校生活スタートプログラム」の充実や就学前を含む多様な異年齢交流等の体験活動を推進

5「みんなの学校」を実現（思いやりの心を育み共生社会の実現を目指す人間の育成）

①多様な学びの場の充実による要支援生徒へ個別最適な支援実施（自立応援室、オンライン授業、通級指導教室等）
②多様な課題を抱える生徒及び家庭への支援の充実を図るための校内組織的対応及び関係機関との連携強化
③教育活動全体を通して共生社会の実現を目指す豊かな心を育成（人権教育の充実、多様な価値観の受容）

6　教職員の資質能力の向上・働き方改革の推進（主体的アップデートを基盤として）

①各種校内研修を充実するとともに校内の教職員支援体制を充実し、資質能力を育成（授業改善専門教師の配置）
②教育活動及び校務の見直し・効率化、学校ICT化を進めることで時間外在校等時間の削減を徹底

※コミュニティスクールによる地域とともにある学校
地域共育目標【周囲に愛されながらチャレンジし続ける子どもの育成】「愛される人に」をメッセージに

【付録】

荘内中学校の学校経営計画書は、デジタル変革（DX）を軸に、生徒が主体的に学び、社会に貢献できる「自走する学習者」の育成を最大の使命としています。具体的には、AI ドリルの活用や協働学習による学力向上、生徒の自治能力を高める行事運営、そして地域と連携した小中一貫教育の推進を掲げています。また、教職員の指導力向上と働き方改革を並行して進めることで、持続可能な教育環境の構築を目指しています。多様な生徒一人ひとりに応じた個別支援を充実させ、誰もが笑顔で活躍できる「みんなの学校」の実現を図る包括的な指針となっています。

荘内中学校が推進する「荘内中型学校教育 DX」は、デジタル技術を活用して**「自走する学習者」**、すなわち主体的に学び行動する生徒を育成することを目指しており、具体的には以下のような形で生徒の学びを変化させます。

1. 「先行学習」と「協働学習」の連動による授業の質の向上

「荘内中版：学びスタイル」として、家庭でのデジタル活用と教室での学びを密接に連携させます。

AI ドリルの活用： AI ドリルを活用した先行学習（予習）を推進し、基礎知識を習得した状態で授業に臨みます。

生成 AI の活用スキルの育成： 単に答えを出すためではなく、生成 AI を学びに活用するスキルを身に付けさせます。あわせて、コピペや AI 任せでは解決できないような工夫された課題に挑むことで、思考力を養います。

真の協働的な学び： クラウド上で他者の学習目標や振り返り、学習状況をリアルタイムで共有します。これにより、お互いに教え合い、高め合う「協同学習」を徹底し、将来的には自分のペースで進める「自由進度学習」へと発展させていきます。

2. 学習の「見える化」と PDCA サイクルの確立

デジタルとアナログ（手帳）を組み合わせ、生徒が自らの学びを管理できるようにします。

クラウド課題の提示： 教科の特性に応じ、家庭学習と授業を連動させる課題をクラウド上で提示します。

フォーサイト手帳の活用： デジタルでの学習管理と並行して「フォーサイト手帳」を活用し、主体的な学びの PDCA サイクル（計画・実行・評価・改善）を徹底させます。

3. 生徒の主体性を引き出す「委ねる」教育

DX は教室内での学習にとどまらず、学校生活全般における生徒の自治を支援します。

生徒会・行事の民主的運営： 学校行事や部活動、生徒会活動において、生徒自身が企画・運営を行う取組を重視します。

ルールメイキング： 校則などの規則を自分事として捉え、生徒自身の手で更新していく取組を充実させます。

データに基づく支援（PBIS）： Web-QU や SEHS などの生徒分析ツールを活用して実態を把握し、ポジティブな行動的介入と支援（PBIS）を行うことで、生徒が正しい判断のもと主体的に行動できるようサポートします。

4. 多様な学びの場と個別最適な支援

ICT を活用することで、一人ひとりの状況に合わせた柔軟な学びを提供します。

個別最適な支援：「自立応援室」やオンライン授業、通級指導教室など、多様な学びの場を充実させ、要支援生徒に対しても個別最適な支援を実施します。

コンピテンシーの育成：「総合的な学習の時間」を通じた 3 年間の探究活動や、「こみゅトレ」「まなトレ」「ねっトレ」といった時間を設定し、変化の激しい社会を生き抜く力（コンピテンシー）を育みます。

このように、荘内中学校の教育 DX は、単にタブレットを使うことではなく、デジタルを道具として使いこなしながら、生徒が自ら学びを創り出し、社会に貢献できる人材へと成長していくプロセスを支えるものです。